

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194300026		
法人名	株式会社はなしのぶ		
事業所名	グループホームはなしのぶ		
所在地	北海道釧路郡釧路町別保9丁目28番地		
自己評価作成日	令和元年9月13日	評価結果市町村受理日	令和元年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中、日々みなさんのんびりと過ごされております。

町内会行事への参加や季節に応じた施設行事の実施、保育園との交流会等沢山の行事をおこないみなさん笑顔が絶えず過ごされております。

リビングの窓から鹿やキツネ、野生のためき等沢山の動物もみる事が出来日々良い変化のある生活が送れます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0194300026-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和元年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはなしのぶは、自然環境に恵まれ、多くの動物が生息しているのんびりとした場所に、この地域の福祉施設の中核として平成12年に開設しています。「愛し、愛され、ふるさとで生きる」を理念とし、代表者の経営方針「健全経営を目指し地域に根差して行く」をもとに、地域に貢献できる事業所を目指しています。行政からは災害時の福祉避難所としての依頼があり、環境整備に向け取り組んでいます。事業所は地域の町内会に加入していますが近隣の他町内会とも親しくしており、敬老会等の行事へのお誘いを受けています。地域清掃や忘年会、盆踊り等の行事に参加したり、小学校、保育所との交流が行われ利用者からは喜ばれています。また、運営推進会議へは両町内会役員や駐在所、郵便局等地域の方々の出席を得ておりグループホームの運営に協力を得ています。利用者の尊厳や誇りを傷つけない介護への取り組みは無論のこと、希望や思いを把握し利用者の笑顔、ありがとうの言葉を大切に一人ひとりの事を把握するように努め、代表者、施設長、管理者、職員は一丸となってグループホームの改革に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し日々確認、共有しながら実践に努めている。	事業所施設理念「愛し、愛され、ふるさとで生きる」を各ユニット、事務所に掲示し、ホームページ、パンフレット、重要事項説明書に記載しており広く周知しています。また職員には携帯カードを配布し常に意識し実践できる様取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から挨拶をかわしたり町内会行事に参加している。又、施設のイベントにもご案内し参加していただいている。	町内会に加入しており、忘年会、敬老会、盆踊りと行事に参加しています。学校、保育園との交流会が年2回づつ行われています。また、他の近隣町内会とも交流があり地域に根差したグループホームとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町民後見人養成に係る実習生の受入れやボランティアの受入れ等も行い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において状況報告の実施、施設管理における報告等を行い、皆様からの意見、要望等聞き取る場を設けている。	運営推進会議は2ヶ月毎に利用者家族、地域住民、二つの町内会役員、駐在所所長、郵便局長、地域包括職員等の多彩な出席を得て開催し、報告、質問、意見を得て運営に活かしています。欠席した利用者家族へは通信の中で報告し共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のみで解決できそうにないケースにおいては福祉課へ相談、協力を依頼し困難なケースも対応できるよう努めている。	行政担当者が地域包括支援センターを担当されており、運営推進会議の中で多くの指導助言を得ており、積極的な協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わず一人一人に合わせたケアをおこなっている。又、マニュアル等へも目を通し日々支援の方向性を話し合っている。	身体拘束廃止に関する指針を策定し2ヶ月で1回のペースで開催しています。職員はマニュアルで研修し内部研修にも取り組んでおり、身体拘束が及ぼす弊害や禁止対象の具体的な行為、行動抑制等を理解して身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり職員同士声をかけ合い防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり後見人の方に日常の様子を伝え対応している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明し不安や、疑問点等を伺いよく理解していただいた上で署名、印をいただいている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等の場で意見、要望等伺う場面をもっている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中や面会時に把握するよう努めて運営に反映させています。また、はなしのぶ通信で行事や外出の全体写真と個別写真、様子報告を織り交ぜて掲載しており喜ばれています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で要望等の聞き取り反映させている。	職員の意見や提案は各ユニットごとに毎月のミーティングや日常業務の中で把握するよう努めています。法人の代表者も常駐しており日常業務の中で積極的に会話し経営方針の理解に繋げ健全で信頼関係がある事業運営に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	こまめに個別面談を行い条件等の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者を募り外部研修や施設内研修を実施。又、研修報告会を行い職員全員が周知できるよう努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり交換研修を行い他事業所との交流機会を持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人と必ず面談をおこない思いや要望を聞き取る場面を設けている。又、訴えられない方に関しては家族様からの生活歴や性格等必要な情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族様が困っている事、要望を聞き取り本人、家族、施設側が良好な関係性となるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本院、ご家族の精神状況、介護負担を考慮し担当ケアマネージャーがと相談しながら入居までの必要とされるサービスの流れを作っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本方針にある「生活のパートナー」を意識し入居者でありながらも家族の一員としての目線でコミュニケーション介護を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも協力していただき相談しながら本人が生活しやすいケアができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行きたいと希望すれば施設側が連絡をとり対応をお願いしている。その他様々な馴染みの人や場所に会える、行けるよう可能な限り応じている。	利用者の馴染みの美容室へは、希望により、これまで通り訪問できる様支援していますが、多くの利用者は訪問美容を多く利用しています。知人、友人の訪問があり懇談できる様配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓を囲んでの会話や作業、職員が間に入りたりもしながら関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際、困り事等があれば相談するようお声掛けし気軽に相談していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向を普通の会話の中から言いやすい雰囲気のもと引き出せるようにしている。又、行動や表情も観察している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、利用契約時に把握し、なおかつ普通の会話の中で確認しています。また、トイレへの誘導や入浴時に個別の会話が出来その機会に多くの会話出来る様努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご本人、ご家族、ケアマネージャーからの聞き取りし入居後の支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、体調の変化等を介護記録に記載、又、申し送り、連絡帳、ミーティングで情報の伝達や交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向、心身の状況等に変化が見られた場合、安心、安全をもとにケア方法の改善を提案、意見を伺いながら計画を作成している。	介護計画は基本的には短期目標期間の6ヶ月毎に利用者、家族の意向を確認して見直しをしています。毎月の職員ミーティングの中でカンファレンスを行っています。介護記録には短期目標が表記されており記録時にも確認できるようにしており、適切な記録と現状に即した計画作成がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録、連絡帳、申し送りにて情報共有を行い定期的なミーティングで再確認と介護計画の見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対して一方的に断るのではなく出来る方法を検討し可能な限り答えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問等を行う場合、地域の方々への呼びかけ、入居者にとって昔から交流のある知人との時間を過ごせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される所へ受診していただいている。施設のかかりつけ医院以外の病院でも体調によってはスタッフが同行し病状の説明などおこなっている。	殆どの利用者は希望するかかりつけ医へ受診しています。月2回の訪問診療や訪問看護、月1回の皮膚科、必要に応じて歯科の往診もあり、適切な健康管理がなされ利用者の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化、不安な事があれば訪問看護に相談しアドバイスやケア方法をおしえていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、フェイスシート等情報提供をおこなっている。又、入院中定期的に面会に行き状態の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に施設側の方針を説明しご本人、ご家族の意向を確認している。又、年齢、体調からご家族、医師を交えて話し合いを行い看取りケアを実施している。	入居時に看取りケアに関する指針により説明しています。時期が来た時には医師を交えてインフォームドコンセントで説明して同意を得ています。利用者の状態の把握に努め、日々の状況について随時家族に対して説明し、住み慣れた場所で安らかな最期を迎える為の環境整備に努めています。	看取り介護について入居時に事業所の方針を説明していますが、書類を渡し情報共有することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル、AED使用の講習会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。防火管理者による指導、教育をうけている。	消防署立会いのもと昼夜想定避難訓練や地域の防災訓練を実施しています。緊急連絡網には近隣住民が多数登録されている他、避難時の福祉避難所としての役割を担っています。	福祉避難所として役場と協定を結んでいますが、災害時の備蓄品や発電機などの対応、役割を明確にした体制を整える事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴、日々の関わりから一人一人の性格を把握し心地よく過ごせるよう環境、言葉かけができるようにしている。	利用者の尊厳を守りながら声掛けに注意し、利用者を理解し毎日楽しく、笑顔で穏やかに過ごせるよう一人ひとりに合った支援を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を言い出しやすいコミュニケーション(雰囲気、表情、イントネーション)が行えるよう普段から注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、年齢、体調部分に配慮し施設のリズムではなくご本人の生活リズムになるべく合わせ無理なく生活できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を一緒に選んだりスタッフと一緒に買い物に行き好みの服等を購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作らずなるべく食べたい物を聞き取りながら食事提供をしている。又、準備や片付けのお手伝いも一緒におこなっている。	毎日の献立は、その日の職員が利用者の食べたい物を聞き栄養バランスを考えながら調理しています。利用者と職員と一緒に畑で収穫したトマトやピーマンなどでピザを作ったり、屋外でバーベキューをしたり楽しい食事になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の観察を行い状態に応じて刻み、トロミ、ゼリー等の食事形態に変更し安全に必要な栄養が摂れるようおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員が口腔ケアを行っている。自力困難な方、磨き残しのある方は介助を行い口腔内の衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の観察を行い排泄パターンを把握しトイレへ誘導、トイレの排泄ができるよう促している。	排泄パターンを把握し利用者一人ひとりに応じた介助、声掛け誘導で自立に向けたトイレでの排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因となりうるものを探し水分や食物繊維をとるよう促している。又、体操を日課にとりいれたり医師に相談し下剤調整をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日は決めず週2～3を目安に本人の意向に合わせて入浴していただいている。	週2～3回を基本に利用者の体調や状態に配慮し入浴しています。入浴剤を使用し身体や心がゆったりと気持ち良くなるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズム、年齢、体調を踏まえご自身のペースで休息し無理なく生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の診療報告書、処方箋等を都度職員が確認するようにし又、薬に変更があった場合注意して観察、記録し状況に応じて主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事、やりたい事、楽しみ等の把握に努めお手伝い等の役割、好みのおやつ、飲み物の提供、カラオケ、ドライブ等を日々の生活の中に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のみで対応するのではなくご本人の希望を相手(家族、友人、美容室等)実現できる方法を皆で検討し対応している。	天気の良い日には散歩に出掛けたり、はなしのふ祭りや御神輿、獅子舞を見物したりドライブなど利用者の希望を叶え実現に向けすぐ実行できる環境となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけ一緒に品物を見ながら好きなものを購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が番号を押し電話でのやり取りを行う事ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、室温、音量等不快感がないよう入居者様に確認しながら調整している。又、季節の花、装飾を飾り皆が楽しめるようにしている。	居間には、食卓テーブルやソファなどが置かれ家族の方が手入れをしてくれている水槽では魚を飼っています。映画鑑賞やカラオケ、保育園児と交流したり、利用者の手作り手芸や貼り絵が飾られています。温湿度は濡れタオルなどを掛け快適に過ごせるよう取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他、ソファ談話室で好きな場所で好きな人とおしゃべりや一人でくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の大切な物、馴染みの物を持ってきていただくよう説明し馴染みの物で安心して生活できるようにしている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、使い慣れたベットやテレビ、仏壇、家族の写真など調度品が置かれ自分らしく安心して生活できるよう取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の理解力、ADLの把握に努め家具の配置、福祉用具を活用する等安全に自立した生活ができるように努めている。		